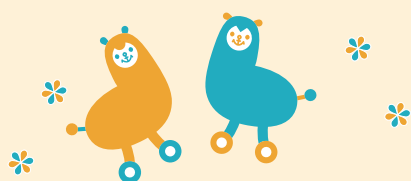


# コミュニティ・カーシェアリング 実践ガイドブック vol.2



イラスト・漫画 / FUMIO OBATA  
デザイン / 宮本 悠合



石巻発、寄付車でつくるやさしい未来

日本カーシェアリング協会  
Japan Car Sharing Association

## ❁ もくじ

● 第1章『コミュニティ・カーシェアリング』ってなに?.....	3
● 石巻で生まれた『コミュニティ・カーシェアリング』.....	4
● 『コミュニティ・カーシェアリング』を始めた人の物語.....	6
● 『コミュニティ・カーシェアリング』の特徴.....	8
● こんな地域におすすめ.....	10
● 実践されている皆さんの紹介.....	11
● 法律について.....	12
● 災害時の役割.....	14
● 第2章『コミュニティ・カーシェアリング』を始めよう!.....	15
● 『コミュニティ・カーシェアリング』を始めた地域の物語.....	16
● 導入の流れ.....	18
● CCSコーディネーター.....	19
● 協力体制について.....	20
● 石巻での地域連携.....	21
● 運営のための取り決め.....	22
● 経費と精算.....	23
● 車について.....	24
● 旅行に行こう!.....	25
● 大切なこと.....	26
● Q&Aコーナー.....	28
● 挑戦したい地域が挑戦できる環境を作る.....	30
● 第3章 資料編.....	31
● データでみる『コミュニティ・カーシェアリング』.....	32
● 利用者インタビュー.....	34
● 導入サポートプログラムについて.....	38

# 第1章

## 「コミュニティ・カーシェアリング」ってなに？

この冊子の案内役の  
CCSコーディネーターのマキです。  
私の隣は日本カーシェアリング協会キャラクターの  
スートンとローリーと仲間達です。  
よろしくお願いします。



ローリー

スートン

※スートン（石）とローリー（巻）  
で石巻になるのです。



# 石巻で生まれた

## 『コミュニティ・カーシェアリング』

『コミュニティ・カーシェアリング』が始まった経緯と活動の概略をお伝えします。



東日本大震災の際、石巻では約6万台の車が被災し

車が圧倒的に足りなかった。

そして、多くの方々が移動に困っていた。

仮設住宅等に届け...

一般社団法人日本カーシェアリング協会は全国の個人・企業から車の寄付を募り、

そこから車の共同利用（カーシェアリング）が始まりました。

ただし、ここで行われたカーシェアリングは、巷のカーシェアリングとはちょっと違うのです。

経費負担の仕方

鍵の管理

予約の仕方

利用する人達でルールと役割を決めて運営していったのです。

それぞれが無理なくできる範囲で協力しました。

すると、会話が生まれて

今日はいいい  
天気ですね～

あっ、そうそう  
鍵を貸してください

助け合いが生まれて

お婆さん、  
病院まで乗せて  
ってあげるよ!

交流も増えました。

震災から8年以上たった今、この仕組みは  
石巻に根付き、広がり続けています。

更に移動に課題を抱える様々な地  
域で実践されるようになりました。

FROM  
石巻

地域コミュニティ（ご近所さん同士）  
がカーシェアリングを運営する  
ことで...

無理せず  
楽しみながら

支え合う地域をつくり

気がつけば移動の  
問題も解決されている。

そんな地域の  
サークル活動  
...

それを  
「コミュニティ・  
カーシェアリング」  
と呼ぶようになりました。

MADE  
IN  
石巻!



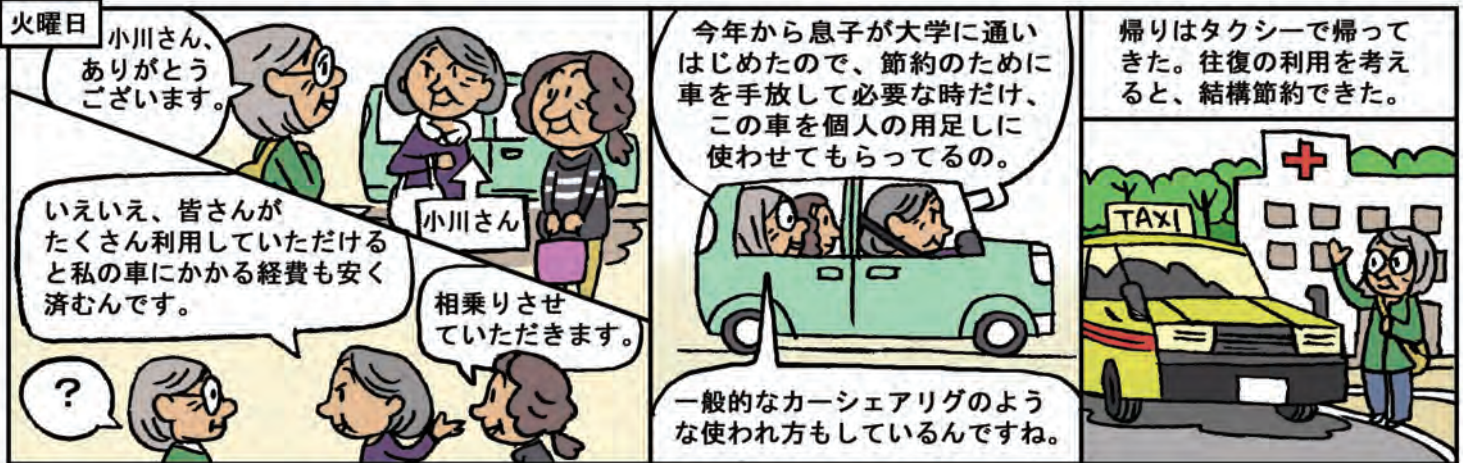
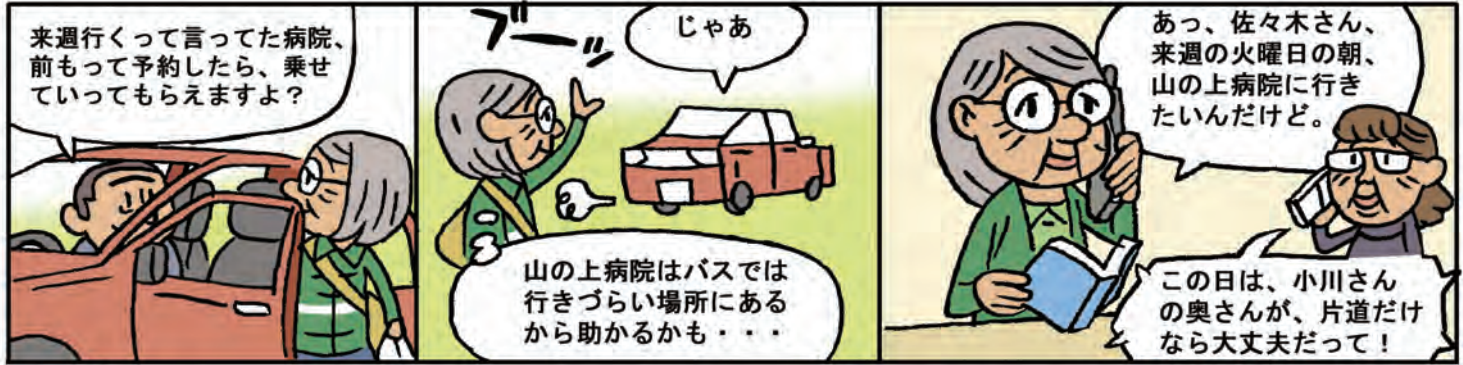
このガイドブックは

様々な地域で  
『コミュニティ・  
カーシェアリング』を  
実践していただけるように  
石巻で8年間積み重ねて  
学んだエッセンスを整理して  
紹介していきます。

はじまり、  
はじまり～

# 『コミュニティ・カーシェアリング』 を始めた人の物語





# 『コミュニティ・カーシェアリング』の特徴

『コミュニティ・カーシェアリング』一般的なカーシェアリングとは大きく異なります。その特徴についてご紹介します。

## ✿ 主な3つの特徴



### 1. 目的は「支え合う地域づくり」。

～楽しい地域のサークル活動として車を柔軟に活用～

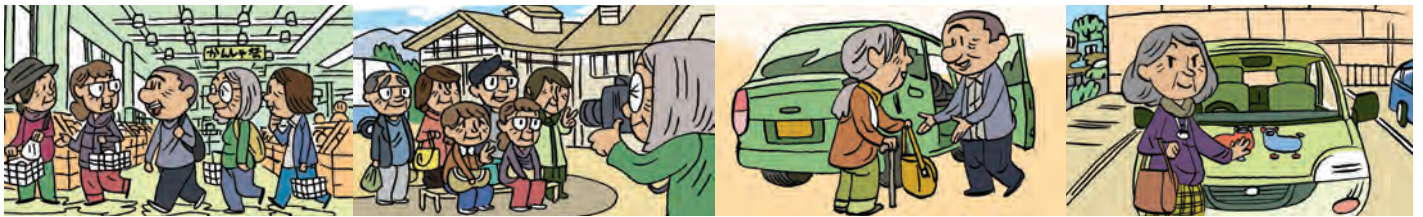
『コミュニティ・カーシェアリング』はご近所同士で車を一緒に活用し合う地域のサークル活動です。一般的なカーシェアリングとは違って、地域コミュニティが運営し、支え合う地域づくりを目的としながら、柔軟に車を活用します。

乗り合い買い物&ランチ

旅行

外出支援

たまに使いたい人が使う



### 2. 地域の人たちで運営する。

～ルールと役割はおちゃっこで決める～



毎月集まっておちゃっこ※を開催し、運営状況を確認したり、ルールを決めたり、次の旅行の予定を立てて、自分たちで役割を分担しながら運営します。最初は雛形のルールに基づいて活動が開始しますが、時間の経過とともに地域に合わせたオリジナルな形へ自然にカスタマイズされていきます。※お茶を飲みながらお菓子や漬物などを食べつつおしゃべりする東北独自の文化であり方言。





### 3. 経費は実費を平等に分担。

～定期的に精算しながら運営～

車の維持費、燃料代、駐車場代、役員手当等の経費を会員が利用頻度に応じて平等に分担しています。日々の運営のためにルールを決めて積み立てを行い、定期的に精算を行いながら経費実費を分担する仕組みで運営しています。

**積立**  
① ルールを決めて利用の度に積み立てます。

**確認**  
② 経費と積立金と利用状況をおちゃっこで確認します。

**精算**  
③ 定期的に精算します。(払い戻しか追加徴収)

※最終的な負担金額は精算の時に決まります。

**積立ルールの一例**  
(各カーシェア会毎に異なります)

- 日常の外出支援 : 5km毎 500円 ※上限2,500/日
- 個人利用 : 5km毎 500円 ※上限2,500/日
- 買物ツアー : 600円/人
- お出かけツアー : 行き先や内容によって変更 (1,000円+実費程度/人)

積立のルールは運営を考えたおちゃっこで決めています。(必要に応じて変更を加えています)  
活動が活発になればなるほど払い戻しが増えてみんなで節約できます。

### ✿ ポイントは活動の組み合わせ

サロンとツアーと外出支援を組み合わせ、持続可能な支え合い活動を作ることが基本としています。更に、地域独自の活動をプラスすればより地域の実情に合った活動となります。



# こんな地域におすすめ



『コミュニティ・カーシェアリング』でできること、できないことをご紹介します。



## \* こんな地域におすすめ

- ・ 移動に課題を抱えている。
- ・ 移動支援を行いたいと思っているが、やり方がわからない。
- ・ 既に助け合いが行われているが、やり方や持続性に不安を感じている。
- ・ 将来が不安。
- ・ 地域の結束を固めたい。
- ・ 地域の日常に楽しみを増やしたい。



## \* 得意なこと

- ・ 地域のサークル活動なので気軽に始められる。（公的な申請や調整が不要）
- ・ 無理なく楽しく運営できる。
- ・ 移動に困っている人が自然に助かる。
- ・ 地域活動に協力的な人材を発掘できる。
- ・ ルールが整理されるため、困っている人が依頼しやすく、協力したい人が協力しやすい環境になる。
- ・ 様々な地域が実践している活動で、且つアドバイスを受けるながら始められるため、安心して活動を行える。
- ・ 目的や役割が明確なため男性も比較的参加しやすい。
- ・ 手当の支給等を行うことで持続可能な活動にしやすい。 ※送迎行為に対する手当支給はNG。
- ・ 既存のコミュニティ活動を活かせる。
- ・ 活動が幅広いいため様々な分野での政策連携の可能性はある。



## \* 苦手なこと

- ・ ボランティアドライバー等協力者の都合を最優先するため、事業者のような安定したサービスを提供できない。
- ・ 事業で利益を生むことができない。
- ・ ドライバーはプロではなく、善意のボランティアになる。
- ・ お客さんではなくなる。  
（利用者は活動の趣旨と仕組みに賛同し参加するサークル活動のメンバーの一員となる）
- ・ 利用者の地域が限定される。



# 実践されている皆さんの紹介

「コミュニティ・カーシェアリング」を実践している  
公認「コミュニティ・カーシェアリング」会員\*の皆さんをご紹介します。



## 11 地域 約 300 名の方々が実践 (平均年齢 74 歳) 2019 年 5 月現在

吉野町カーシェア会



新西前沼カーシェア会



中央カーシェア会



門脇カーシェア会



不動町カーシェア会



三ツ股カーシェア会



大門カーシェア会



渡波カーシェア会



新立野カーシェア会



石巻以外の  
地域で実践  
されている  
皆さん ▶

しちょう会  
(岡山県美作市)



小鳥の森カーシェア会  
(岡山県岡山市)



\*公認「コミュニティ・カーシェアリング」会員とは、日本カーシェアリング協会のサポートの元、適法の範囲内で適切に「コミュニティ・カーシェアリング」の運営が行われているグループです。(P38でも紹介しています)

## \* グループにはこんなタイプがあります。



### 個人利用型

車の個人利用や外出支援の割合が高いタイプ。人口が比較的多い場合やボランティアドライバーの人数や協力頻度が高い場合にこのタイプになりやすい。

### 集合住宅型

石巻では仮設住宅や復興住宅を中心に行ってきたため基本的にこのタイプとなる。車までアクセスしやすいため個人利用が行われやすい。

### 企画型

買い物ツアーや旅行等の乗り合いでのお出かけ企画が活動の中心となるタイプ。ボランティアドライバーの人数や活動頻度が限られている場合や旅行好きの方がメンバーにいる場合等にこのタイプになりやすい。

### 過疎地域型

一回の移動の単位が大きいため、ボランティアドライバーの1回あたりの負担は大きくなるが、分担する経費が比較的高くても不満が出る場合が少ないため、ルール設計をしっかりと行えば、運営しやすい側面もある。

各地域のより詳しい活動状況はP32、33の「データでみる『コミュニティ・カーシェアリング』」をご参照ください

# 法律について



適法の範囲の中で実施するために法律についての整理をご紹介します。

## 「コミュニティ・カーシェアリング」 を始める前に押さえておきたい法律

### ＊ 道路運送法第2条第3項 では

「他人の需要に応じ有償で自動車を使用して、旅客を運送する事業を旅客自動車運送事業である」

### ＊ 道路運送法第80条第2項 では

「自家用自動車は、国土交通大臣の許可を受けなければ、業として有償で貸し渡してはならない。」

### ＊ 旅行業法第3条では

「旅行業又は旅行業者代理業を営もうとする者は、観光庁長官の行う登録を受けなければならない。」

と規定されており、該当する場合には同法に基づく許可を得ることが必要です。



対価を受け取る送迎行為  
対価を受け取る車の貸出行為  
不特定多数を対象としたツアー行為  
は許認可がなければ  
やってはいけません。

「コミュニティ・カーシェアリング」は仕組みを作り上げる際、東北運輸局並びに国土交通省へと繰り返し相談・協議を行い、許認可を必要とせず、適法性と運用しやすさを両立できるシンプルな仕組みの確立を模索し、次ページの「5つの注意」として整理しました。



# 法律を遵守するための5つの注意

1

## 移送や車の貸出しに偏らない

会員同士で予めルールを定め、移動・防災・旅行等イベントの実施・シェアリングによるコミュニティの形成といった総合的な目的を実現するための地域の互助活動の一環として実施してください。



2

## 適切に費用を分担する

事前に、又は利用時等に会員から集めた会費は定期的に精算し、利用頻度等に応じて適切に経費を分担・負担することが重要です。



3

## 利用形態によって負担額に差を作らない

自分で運転して車を利用する人と地域の方に運転の代行をお願いして車を利用する人の間で会費の額などに差が生じると「送迎における対価」とみなされるため注意しましょう。



4

## ボランティアドライバーへの謝礼を定めない

燃料代・駐車場代等実費を除き、ボランティアドライバーへの謝礼は換金性のない物品や自発的に行なわれる謝礼といった一部の例外を除いて原則認められません。但し、会計係やイベント運営など会全体の運営に関わる役員や役務に対して、運転行為の対価ときちんと区別して手当てを支払うことには問題はありません。



5

## 旅行は参加資格を限定する

お出かけを企画して参加者を募集する際は同じ地域に住む会員もしくは会員から紹介を受けた者等、顔見知りの範囲内で実施し、不特定多数に募集しないようにしましょう。



# 災害時の役割



『コミュニティ・カーシェアリング』が災害時に果たす役割をご紹介します。

『いつもやっているから、非常時に活かせる。』

災害時、移動に困る方がたくさん現れます。

地震や水害の時、車を被災する方、交通の便の良くない場所で避難生活を送られる方等、移動に困る方がたくさん現れます。一方、被災された方々は片づけ・買い物・役所の手続き等、必要な用事が多くあるため、自由に移動できない環境の中だと困り果てた状況となります。

そんな時、限られた車を融通し合ったり、乗り合いで移動する『コミュニティ・カーシェアリング』が大変役立ちます。

また、災害時に最も頼りになるのは地域の助け合いです。日頃の『コミュニティ・カーシェアリング』の活動で助け合いの素地が育まれていれば、災害時に様々な面で活かされることでしょう。

さらに

電気を供給できる車を活用すると  
いざという時にも活かされます。



電気自動車やプラグインハイブリッド車等は車に搭載しているバッテリーを非常用の電源として活用できます。『コミュニティ・カーシェアリング』でそうした車を活用し、日常の活動の中で電源として使用することで、いざという時にもフルに活用できるようになります。

## 石巻事例 自治体との防災連携

石巻市と日本カーシェアリング協会は2018年8月に「災害時の相互応援協定」を締結し、災害時に避難所への車の設置や電気自動車など電気を供給できる車の非常用の電源活用を協働して実施することになりました。『コミュニティ・カーシェアリング』を実践しているグループは優先的に電気自動車を配備し、毎年11月には協働して訓練を実施しています。(2018年度は10地域で訓練が実施されました)

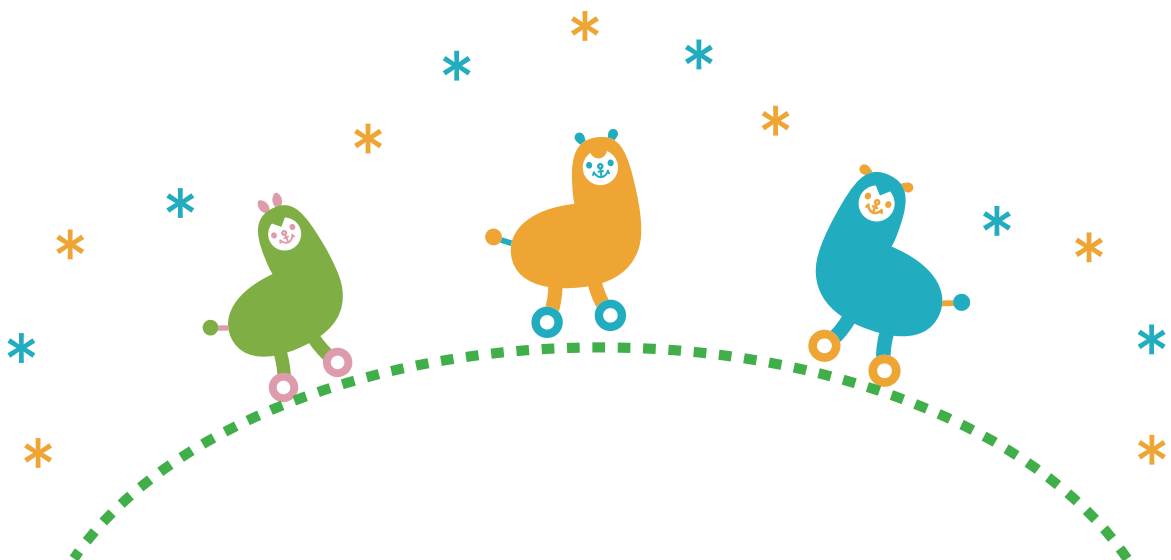


防災訓練の様子

# 第2章

## 『コミュニティ・カーシェアリング』

を始めよう！



# 『コミュニティ・カーシェアリング』 を始めた地域の物語



来年度からバスが減便になります。

それは困った。

市の職員

何とかしないと...

しかし、様々な壁が立ちはだかるのでした。

この地域はスーパーや病院から離れてて、更に高齢化が進んでいる。

よし、地域で移動支援活動を行おう！

カベ

よし、自分たちで住民バスを運営しましょう。

しかし、こちらも様々な壁が立ちはだかるのでした。

どーん!!

事故の時どうすれば？

法律は大丈夫？

どんなルールで？

地域の合意形成は？

採算はとれる？

おっ

どうしたらいいの？

CCSコーディネーターが定期的に地域を訪問し、導入をサポートしてくれるらしい。

話を聞く機会を作りましょうか？

お願いします！

こうして、小さな勉強会が開催されました。

関心ある人達で、無理せず取り組むサークル活動です。

そう言えば、石巻の『コミュニティ・カーシェアリング』ってのが気軽に始めることができるらしいよ？

もし、皆さんが自立運営を目指して取り組むなら、地域の支え合い作りのための補助金で自治体もバックアップできますよ。

挑戦します！

こうして、サポートが始まりました。

みなさんにテストで使っていただく車です！

おっ。

石巻で使っているルールや書式を使って1カ月テスト運行が始まりました。

便利さや楽しさを体感！

お手伝いを体感！



